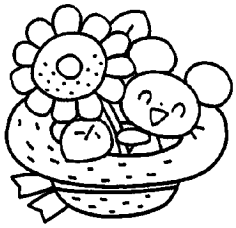

麻布幼稚園だより　7月号

平成30年6月29日　港区立麻布幼稚園　　園長　大島　美知代

「集団生活の中の『きまり』って？」

園長　大島　美知代

１学期の最後の月となりました。園児たちもいつの間にか幼稚園に慣れ、幼稚園に来るのが当たり前のようになりました。今年度のスタート時、園庭の工事によって、送り迎えも幼稚園玄関だけという狭い場所での登降園となったので教職員は思案し、迎えの方法、流れを決めました。不自由をお掛けしていますが、今では玄関のガラス戸の鍵の施錠も習慣化され、指はさみ防止カバーや玄関前のスペースについても工事も終わって少しは改善したのではないでしょうか。

園庭が「狭さ」も園児たちにはあまり関係がない様子に見えます。それも併設の麻布小学校の協力、幼稚園教育の理解のおかげで、校庭や体育館等を思い切り使って遊べているからだと思います。「みんなの広場」(旧バッタ園)も広く、きれいな広場となり、案外日陰もあるので遊びにかなり活用できます。園庭が囲われたことで梅の実の収穫を心配していましたが実の収穫ができ、またサクランボや柿の木も元気です。きっと秋には柿の実がなり、園児たちの活動を豊かにしてくれると期待しています。

さて、園児たちは≪家庭での生活≫と≪幼稚園の集団生活≫の両方を送っています。家庭では、家庭の生活の流れがあり、保護者や兄弟、姉妹と共に保護者の監督の元、生活をしています。もう一方幼稚園は、幼稚園の生活の流れがあって集団生活を送る上のきまりがあります。家庭の保護者と同じような役目をするのが幼稚園の教職員や様々関わってくれる大人です。家庭と違うのは同年齢の子どもが３０人近くいて、一緒に活動することです。「さあ、集まる時間よ。先生の話を聞く時間です」とか「さあ、片付けをして、着替えをしたらプールに入りますよ」とか、「洋服を着替えておうちに帰る準備をしようね」など、一緒に友達と一緒に動きます。家庭とはここが違うところです。一緒に動く時には集団生活なので「きまり」が生じます。「隣の友達とぶつからないように椅子を置こうね」や「きちんと洋服をたたんでね」、「トイレに行ってから着替えようね」等々です。もちろんプールに入るまでには、自分の使った遊具の片付けをしたり、順番を守って集まり、準備体操をしたり、シャワーを浴びたりしなくではなりません。

このように、「集団生活の中での「きまり」って？」は必要なことなので守れるように指導をします。集団生活では自分の思い通りに相手が動くとは限りません。教員は状況を丁寧に説明したり、気持ちが変わるまで待ったり、流れを変えたり、できる工夫をして守れるようにします。しかし幼児期は自己中心的な思考で行動する時期、自分から守れるようになるまでにはまだまだです。５歳児になってくると、理由や状況を説明し、友達の様子を見せたり、他の友達の口添えをもらったりするとだいぶ理解が進んでくるようです。

『幼稚園教育要領』の第１章の総則、第１の幼稚園教育の基本では「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり～(原文引用)」と言われています。この時期、規範意識を育むために家庭と幼稚園が一緒に工夫し、頑張っていきましょう。